

# 令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校【定時制課程昼間部】学校評価総括評価表

## 【令和7年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

### 1 本校の教育目標

#### (1) 基本目標

生命を大切にする心を育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応じて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

#### (2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的な生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道徳教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

### 2 本年度の重点目標

#### (1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考えを的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

#### (2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

#### (3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価		学校関係者の意見
(1) ①	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B	<p>○ 次年度も授業力向上をめざし、本年度の取り組みを継続していきたい。県域アカウント等も積極的に活用し、デジタル化を推進し、生徒の興味・関心を引き出す授業展開につなげる。</p> <p>○ 卒業後の進路選択としてフリーターを選ぶ生徒未決定者を減らすよう、進路指導を充実させ、多様な系統的キャリア教育を推進する。</p> <p>○ 個別面談などを実施し、進路に関する目標設定を明確にすることや、家庭学習の習慣が身につくよう、その定着を図る方法を工夫する。</p>	
	①-1 ICTを効果的に活用して分かる授業を実践し、前向きに授業に取り組める生徒を80%以上にする。 (教務情報課)	①-1 教員の相互授業参観週間(学び愛週間)を年1回設定するとともに、ICT教育に関する研修を充実させ授業力向上を図る。 (教務情報課)	①-1 GIGA推進により、端末を活用した授業実践も増加し、授業に前向きに取り組めた生徒は80%(「前向きに取り組めたか」という問に対し、そう思う:34%、ややそう思う:46%)であった。	(所見) ① 授業での活用が増え、生徒も操作に慣れたことで、相互に助け合いながら、主体的に取り組む姿が見られた。学びあい週間により、授業の工夫や生徒の様子などを知ることにより、教員相互の授業力向上につながった。		①-1 ICTの活用等、様々な教育支援が開発されており、生徒同士の協働的な取り組みや理解の深化につながっていることが評価できる。
	①-2 進路関連行事が勤労観・職業観及び対人技能の向上に役立ったとする生徒を85%以上にする。 (進路指導課)	①-2 生徒の実態や志望に応じた進路ガイダンスや講演会等を、大学・専門学校・企業等と連携しながら計画実施する。 (進路指導課)	①-2 進路ガイダンス等を年4回実施した。「将来の進路に役立った」とする生徒は88%であった。 (進路指導課)	進路ガイダンスでの気づきや学びを、進路選択の実現に結びつけることができた。		①-2 進路ガイダンスを通じて進路選択の実現に結びつけており、生徒の満足度も高い。
①-3 「キャリアパスポート」等の効果的な活用により、卒業後の進路を意識して学校生活を送れたという生徒を85%以上にする。 (進路指導課)	①-3 将来につながる就労体験やオープンキャンパス、体験的活動に意欲的に参加させ、ICTを活用したポートフォリオを充実させ進路目標を明確にさせる。 (進路指導課)	①-3 職場見学やワークショップをはじめ、総合的な探究の時間コース別の各講座で体験活動を行った。69%の生徒が「自分の能力向上や資格取得または教養を高めることにつながった」と回答した。 (進路指導課)	選択科目「インターンシップ」での体験や職場見学に参加した生徒がいたり、前向きな行動が見られた。	①-3 キャリアアップにつながる各種体験活動が行われている。		

<p>①-4 定期考査に向けて、計画的に学習に取り組んだ生徒を50%以上にする。 (教務情報課)</p>	<p>①-4 定期考査1週間前に学習計画表を配布し、計画的に家庭学習に取り組む手立てを講じる。 (教務情報課)</p>	<p>①-4 考査時間割やテスト範囲表を配布するなど考査への意識付けを行ったが、計画的にテスト勉強をした生徒は31%であった。</p>	<p>昨年は29%とあまり変化は見られなかった。半数近くの生徒が計画的に学習に取り組めていない傾向がある。</p>	<p>①-4 定期考査に対する意識について対策を講じる必要がある。</p>	<p>○ 考査前に個々の科目ごとの学習目標シートを配布して家庭学習の意識付けを図る。</p>
<p>①-5 基礎学力診断のためのトライテストを年3回実施し、各教科のテスト勉強に1時間以上取り組んだ生徒を80%以上にする。 (進路指導課)</p>	<p>①-5 トライテストの対策問題集に確実に取り組ませるとともに、個別課題に取り組ませ基礎学力の定着を図る。 (進路指導課)</p>	<p>①-5 トライテストの勉強に1時間以上取り組んだ生徒は12%であった。3時間以上取り組んだ生徒は6%に止まった。</p>	<p>トライテスト課題の取組については、課題の解答を写すだけで実施したつもりになっている傾向がある。</p>	<p>①-5 学習意欲が向上するような工夫をしていただきたい。</p>	<p>○ トライテストの結果をフィードバックすることや、テストの重要性を理解し、計画的に学習できる態度を身に付けさせる。</p>
<p>①-6 「総合的な探究の時間」コース別の内容を充実させ、非常に意欲的に取り組んだ生徒を75%以上にする。 (進路指導課)</p>	<p>①-6 生徒のニーズに応じたコースを設定すると共に、地域や専門機関と連携して効果的な体験活動を計画実施する。 (進路指導課)</p>	<p>①-6 総合的な探究の時間のコース別学習に意欲的に取り組んだ生徒は69%であった。</p>	<p>今年度は昨年に引き続き総合的な探究の時間のコース別学習の成果発表会を1月に計画し、全ての生徒が発表に関わるよう計画をした。どのコースも生徒が主体的に取り組む様子が顕著に見られた。</p>	<p>①-6 総合的な探究の時間において、主体的に取り組む姿勢が表れていることは評価できる。達成目標に届いていない点については、テーマ設定、支援体制、評価方法を再点検し、学習意欲を引き出す仕掛けを強化することが課題ではないか。</p>	<p>○ 総合的な探究の時間の学習内容の検討や成果発表会により一層の充実を図り、生徒のキャリア形成に生かす。地域や専門機関との連携も継続していく。</p>
<p>② ② 生徒が学校で安心して過ごすことができ、さまざまな人権学習を通してレジリエンスを獲得し、人権意識が涵養されたとする生徒を80%以上にする。 (特支人権教育課)</p>	<p>②-1 人権学習ホームルーム活動や人権関連行事を通してレジリエンスを獲得するための人権教育に取り組み、さまざまな人権課題へ真摯に向き合い、主体的創造的に解決できる能力と実践力をもつ主体的な人間を育成する。 (特支人権教育課)</p> <p>②-2 全教職員が「隠れたカリキュラム」で人権教育を推進し、ポ</p>	<p>②-1 「人権教育講演会」「人権映画会」を実施した。県人権で「自己肯定感を高める教育の推進」の発表をした。生徒は学校生活を通して、自己肯定感が高まったが77%、HR活動や講演会を通して人権意識が高まったという生徒が70%であった。</p> <p>②-2 「隠れたカリキュラム」「ポジティブな行動支援」に関する理</p>	<p>② 生徒が積極的に交流会に参加し、有意義な人権学習を行うことができた。</p>	<p>②-1 人権学習ホームルームや人権関連行事を通して人権意識が高まっている。</p> <p>②-2 人権教育に関する全教職員の認識</p>	<p>○ 人権委員会の活動についての積極的な働きかけをする。交流会への参加を積極的に推奨する。</p> <p>○ 「隠れたカリキュラム」について、教職員が一体</p>

③	<p>③-1 相談支援体制を整え、悩みや不安を相談しやすい環境が整っているとすする生徒を80%以上にすする。 (特支人権教育課)</p> <p>③-2 教員に特別支援教育と人権教育の理念の浸透を図り、この学校は居心地がよいと感じる生徒を80%以上にすする。 (特支人権教育課)</p>	<p>③-1 カウンセリングや通級による指導を、生徒や保護者に周知するとともに、担任、各支援員、専門機関等と連携しながら、必要な支援を実践すする。 (特支人権教育課)</p> <p>③-2 教職員研修を通して教員の意識向上をはかるとともに、生徒一人一人に対して目配り・気配りをし、教員間で連携しながら、居心地のよい集団をすする。 (特支人権教育課)</p>	<p>③-1 昨年度と同じ4名の支援員の方が個々の生徒や保護者、教員の相談に丁寧に対応してくださった。相談しようと思う生徒は30%だった。通級希望者は3名増加。</p> <p>③-2 特別支援教育と人権教育に関する職員研修を各2回実施した。学校が居心地がよいと感じている生徒は74%だった。</p>	<p>③ 特定の生徒が継続的に相談し、生徒はもちろん教員の負担軽減にもつながっている。</p> <p>必要に応じてケース会議や教科担当者会を開き、共通理解を図った。</p>	<p>③-1 働き方改革の観点からも、各支援員、専門機関等と積極的に連携を図っていたきたい。</p> <p>③-2 教職員研修やケース会議の開催等、支援体制の強化が進んでいる点が高く評価できる。</p>	<p>○ 生徒の相談先としては、友人や保護者が多いと思われる。カウンセリングも身近な相談先として認識されるよう考えていきたい。</p> <p>○ プチケース会議を開くなど、困った時にすぐ相談、アプローチできるような体制づくりをしていきたい。</p> <p>○ 模擬選挙や生徒会役員選挙を通して、主権者教育を実施していく。</p>
④	<p>④ 主権者教育に関する講演・出前授業等を1回実施し、消費者教育に関わる講演や出前授業を1回実施すする。 (全年次)</p>	<p>④ 模擬選挙の実施や消費者トラブル等が身近な暮らしの中に存在していることをイメージさせるための講演や出前授業を実施すする。 (全年次)</p>	<p>④ 主権者教育の出前授業を、1年次生を対象に1回実施すすることができた。</p>	<p>④ 今年度は1年次で主権者教育の出前授業を計画・実施すことができた。</p>	<p>④ 効果が期待できる授業については次年度も継続していただきたい。</p>	

重点	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
課題	評価指標と活動計画		評価	総合評価	学校関係者の意見	
(2)	評価指標(数値目標)	活動計画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) A ----- (所見) ① 管理職による積極的なあいさつや声かけ、面談により、職員室の環境	①-1 風通しの良い職場環境とワーク・ライフ・バランスが重要だ。	○ コンプライアンスハンドブック(改訂版)やコンプライアンス推進室の資料を活用し、職員朝会や学期末に研修の機会を設け、コンプライアンス意識のさらなる向上を図る。
①	①-1 性犯罪・性暴力等の根絶徹底、不適切な指導・体罰の根絶徹底、職場のハラスメント行為の根絶を図る。 (学校運営)	①-1 コンプライアンス推進チーム会議報告書の対策パッケージの効果的な活用と検証を図る。 (学校運営)	①-1 職員朝会や学期末のコンプライアンス研修でハラスメント行為や交通事故の防止に努めた。			

	<p>①-2 コンプライアンス研修・啓発活動等を年40回以上する。 (学校運営)</p>	<p>①-2 セクハラ、パワハラ、妊娠・出産・育児又は介護に関するハラスメント等の研修を実施する。 (学校運営)</p>	<p>①-2 セクハラ・パワハラ、交通事故等に関する研修・啓発を朝刊等で42回実施した。</p>	<p>改善を実施した。自然と声を掛け合う場面が多く見られ、協働的で風通しの良い職場環境となった。</p>	<p>①-2 コンプライアンス研修が充実し、意識付けが浸透している。</p>	<p>○ 事例に基づいた研修の充実を図るとともに、他県の取り組みも参考にして、ハラスメントの防止やストレスの解消法、メンタルヘルスに関する研修を実施する。</p>
<p>②</p>	<p>②-1 外部講師を招いての教職員研修を学期に1回以上実施するとともに、校外における研修への参加を奨励し、教職員の資質向上を図る。 (学校運営)</p>	<p>②-1 研修の内容や方策の見直し、専門機関との連携等を図り、より効果的な研修を実施する。 (学校運営)</p>	<p>②-1 外部講師を招いて全校コンプライアンス研修、メンタルヘルス研修会の教職員研修を実施し、教職員の資質向上を図った。</p>	<p>② 研修内容が充実しており、コンプライアンス意識の向上に繋がった。</p>	<p>②-1 定期的に研修を実施することは重要だと思う。</p>	<p>○ 校外における研修への参加を奨励し、教職員の資質と専門性の向上を図っていく。</p>
	<p>②-2 学校防災計画を生徒、保護者、教職員に周知し、防災避難訓練を年2回以上、地域と連携した防災関係の研修会を年1回以上行う。 (環境厚生課)</p>	<p>②-2 関係機関と連携して避難訓練や避難所開設訓練を実施し、防災士の育成を図る。(環境厚生課)</p>	<p>②-2 学校防災計画を教職員に周知し、防災避難訓練を2回実施した。防災クラブでロープワーク練習、避難所開設キット確認、徳島市防災課からの備蓄品の確認、スチール缶による調理、手旗信号とモールス信号を練習し、救助要請の発見発信法の習得等を学んだ。生徒2名が防災士資格を取得した。</p>	<p>避難訓練は2回とも学期末行事としている。平常の授業日に避難訓練を実施していない。</p>	<p>②-2 避難訓練が行事化しやすい点を踏まえ、平常時の授業場面も含めた実践(抜き打ち)を取り入れ、実効性を高めることが課題ではないか。</p>	<p>○ 他の課程との情報共有や、早期の準備と調整により、避難訓練の実施方法をより現実的で効果的なものにしていく。</p>
<p>③</p>	<p>③-1 教職員のワークライフバランスの実現や、心身の健康に配慮する。 (学校運営)</p>	<p>③-1 業務の効率化を図り、時間外労働を減少させるために定時退勤を促す。 (学校運営)</p>	<p>③-1 教職員への積極的なコミュニケーションを心がけるとともに、年次有休休暇の積極的な取得と定時退勤を促した。</p>	<p>③ 月ごとに出勤簿システムによる勤務時間を確認し、時間外勤務の是正に向けて取り組めた。教職員間の対話を大切にし、教職員のQOL向上に努めた。</p>	<p>③ 管理職面談や、教職員間の対話を促し、定時退勤、有給休暇取得の促進にも取り組むなど、組織として働きやすい職場づくりをめざしている点が評価できる。</p>	<p>○ 勤務時間の客観的な把握の徹底を図ることで、時間外勤務の把握と削減に取り組む。また、デジタル化を推進し、業務の効率化を図る。</p>
	<p>③-2 管理職による教職員面談を年2回以上実施し、教職員一人一人への理解を深め、風通しの良い職場づくりを推進する。 (学校運営)</p>	<p>③-2 日常的に教職員間の対話を促し、何でも話し合える協働的な職場環境づくりと働き方改革を推し、教職員のQOL向上に努める。 (学校運営)</p>	<p>③-2 管理職による教職員面談を3学期に2回目を予定している。教職員一人一人との対話を通じ、風通しの良い職場づくりに努めた。</p>			<p>○ 働き方改革と快適な職場環境の整備を一層加速させ、教職員のさらなるQOLの向上を図るとともに、あらゆる機会を通して、教職員との積極的な対話に努める。</p>

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価	
(3)	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) A	
①	①-1 「教養」の内容を精選するとともに、生徒の参加率を1～3年次は75%以上、4年次は55%以上にし、学習習慣及び基礎学力の定着を図る。 (全年次)	①-1 生徒の実態に応じて教材内容や方策を各年次で工夫するとともに、欠席が多い生徒には担任と年次団が連携して指導にあたる。 (全年次)	①-1 参加率は、目標に到達できなかった。1年次76%、2年次64%、3年次62%、4年次49%。これまでの教養への通り組み姿勢の改善や、学習意欲の喚起ができなかった。	----- (所見) ① 遅刻・欠席の増加が影響している。	①-1 出席率が低下している要因を踏まえ、具体的な対策を講じてほしい。
	①-2 集会や講演を年5回以上実施し、ルールを遵守する態度やマナーが身についたと感じる生徒を90%以上にする。 (生徒指導課)	①-2 専門機関と連携して、講演会を実施し、振り返りを通して学校におけるルールの遵守は社会のルールでもあることを生徒に理解させる。 (生徒指導課)	①-2 「交通安全教室」「夏季休業日前安全教室」「薬物乱用防止教室」「スマホ・ケータイ安全教室」の講演会を行った。保護者の肯定的な意見は、約84%だった。	保護者からの評価であり、生徒の意見を集約する必要がある。	①-2 生徒が興味・関心をもつことができる内容について検討してほしい。
	①-3 学校行事や生徒会活動で生徒が主体的に活動できる場を年8回以上設定し、自己肯定感や他者に共感、協調する態度を養う。 (特別活動課)	①-3 生徒総会や体育祭・文化祭、遠足・修学旅行等の設定や企画の意図についてホームルーム活動等を通じて十分に伝え理解させる。 (特別活動課)	①-3 生徒会を中心に「総会」の在り方を見直し、生徒の意見・考えを反映させる場が、行事として存在すること。また、各行事の目的を伝えることに重点を置いた取り組みとした。	各種委員会の役割・在り方を根本的に見直した。また、生徒が自ら考え、取り組むことのできる行事を企画した。	①-3 生徒が楽しいと感じられる学校生活を送ることができる教育活動を多岐にわたり計画、実践されている。
	①-4 環境や防災に対する関心が高まったと感じる生徒を85%以上にする。 (環境厚生課)	①-4 校内外で美化活動を行う「ごみゼロキャンペーン」を年5回以上、防災クラブの活動を年10回以上実施する。 (環境厚生課)	①-4 「ごみゼロキャンペーン」5回、防災クラブ活動を15回実施できたので、環境や防災に対する意識を大いに高めた生徒もいた。しかし、生徒全体で、環境や防災に対する意識が高まったと回答したのは75%であり、昨年度の62%に比べると増加したが、目標は達成できなかった。	クラブ担当教員や一部の生徒だけが意識を高めるのでは、組織的な防災力は不十分である。教職員と共通理解を図り、地域社会と連携しながら行っていくことが不可欠である。	①-4 環境や防災について、真剣に考えて行動できるようになることが大事だ。
					○ 生徒の出席率の向上が課題である。基本的な生活習慣の確立や基礎学力の定着を図るために、担任と年次団が連携して指導にあたるとともに、家庭との連携も密にする。  ○ 生徒からの評価を集計し、内容の検討事項とする。  ○ これまでの生徒が受け身の行事から、生徒が自ら動き作り上げていく行事を取り入れ、達成感や充実感を得られる行事を企画していく必要がある。  ○ 生徒有志による学校周辺美化活動を、次年度も継続して、より多くの生徒に参加を促していく。

	<p>①-5 学校行事に「積極的に参加できた」という生徒の割合を70%以上にする。 (特別活動課)</p>	<p>①-5 各課程やしらせぎ中学校との連携、外部講師招聘事業などを利用することで、多彩な学校行事を実施し、より多くの生徒に興味関心をわかせる。社会性を育む。 (特別活動課)</p>	<p>①-5 「積極的に参加できた」という生徒の割合が、46%にとどまった。しかしながら「ほぼ積極的に…」の生徒の割合が47%で参加者全体では93%に上る。</p>	<p>参加できていない生徒の割合が1桁であることは、全体で見た場合の意識の高さが評価できる。</p>	<p>①-5 学校行事を通して生徒が明るく、楽しく学校生活を送っている様子が見られた。</p>	<p>○ 参加できていない生徒の半数以上が「寝ていた、面倒だ、いきたくない」等の理由で、これらの生徒へのアプローチを考えなければならない。</p>
②	<p>②-1 緊急連絡システムの登録者数を、生徒90%以上、保護者90%以上にし、連絡体制を整備する (教務情報課)</p>	<p>②-1 入学式等の機会に一斉登録を促すとともに、緊急連絡システムを活用する教員を増やし、生徒や保護者への連絡の徹底を図る。 (教務情報課)</p>	<p>②-1 緊急連絡システムの登録者は生徒:94%(昨年:91.2%)、保護者:86%(昨年:78.2%)で目標を達成することができた。</p>	<p>② 今年度の新入生については、入学式当日の一斉登録としたため、登録者数が大きく伸びた。昨年度の課題であった欠席連絡については、Formsできるように整備した。全ての欠席連絡が入力されているわけではないが、システムが浸透し、利用者は徐々に増加している。</p>	<p>②-1 緊急時の連絡システムが十分に活用されることは重要だ。システムを積極的に活用し、業務の効率化を図ることも大切。</p>	<p>○ 登録しているにも関わらず、「未登録」と表示されたり、入力したのにシステムに反映されなかったりすることもあるので、原因の究明と改善が必要である。</p>
	<p>②-2 各校務分掌、部活動において年1回以上の情報発信を目指す。 (教務情報課)</p>	<p>②-2 校務分掌、部活動、年次等と連携し、積極的にホームページを更新し、学校の魅力発信を行い、地域に開かれた学校づくりを推進する。 (教務情報課)</p>	<p>②-2 各種行事や部活動において、64件の記事の更新があった。複数の課・部活動においては依頼をしたものの、期日までに更新はされなかった。</p>	<p>校務分掌、部活動の担当者による記事の掲載の他、学校行事等の情報発信が行われた。また、昨年度に引き続き、夏季休業中の保護者面談の際、QRコードを提示し、保護者の閲覧数が40%(昨年:13%)と大きく伸びた。</p>	<p>②-2 学校の良さを積極的に発信していたが、インターネットによる反響は大きいので、情報発信には細心の注意が必要。</p>	<p>○ 年度末まで、引き続き更新作業を依頼するとともに、次年度は年度初めの早い段階から、計画的に作業を進められるように案内する。保護者への案内は継続して行う。</p>

<p>③</p> <p>④</p> <p>④</p>	<p>③-1 個別面談を毎学期1回、三者面談を年1回以上実施し、生徒理解を深めるとともに肯定的な声かけを行い、生徒や保護者との信頼関係の充実を図る。(全年次)</p> <p>③-2 PTA関連行事への保護者の参加を前年度比10%増を目指す。(総務課)</p> <p>④-1 地域の巡視を1日2回以上、あいさつ運動を月1回以上実施し、地域に愛され信頼される学校を目指す。(生徒指導課・特別活動課)</p> <p>④-2 「ふるさと大好き!地域防災推進事業」に参加する生徒の人数を前回は10%増を目指す。(環境厚生課)</p>	<p>③-1 個々の生徒の情報を共有し、生徒や保護者に伝えるとともに、学年通信やHP等で積極的に発信し、自己肯定感や共感的人間関係を高める。(全年次)</p> <p>③-2 面談や保護者アンケート等を通じて保護者のニーズを把握し、PTA研修等を実施する。(総務課)</p> <p>④-1 教員が2人1組で校舎内外を巡視し、地域の人々と情報交換して関わりを深める。また、毎月10日を「中央あいさつ運動の日」と定め、生徒会役員を中心として生徒や教職員、地域の人々にあいさつを行う。(生徒指導課・特別活動課)</p> <p>④-2 避難訓練等を通して防災意識を高めると共に、地域と連携した防災推進事業を計画し、地域の人々との交流の機会とする。(環境厚生課)</p>	<p>③-1 各HR担任により毎学期1回全員と必要に応じた臨時の個別面談を行った。夏期休業中を中心に三者面談も行った。電話連絡により必要に応じた連絡も密にして生徒及び保護者の信頼を得ている。</p> <p>③-2 PTA研修会、体育祭、文化祭等への保護者の参加は前年度比約10%増であった。</p> <p>④-1 巡視を行い、地域の人々と情報を交換することができた。あいさつ運動については、あいさつは励行させられるものなのか。ということから実施にあたり、活動に応じた効果を考え、見直す時期にあると考える。</p> <p>④-2 「ふるさと大好き!地域防災推進事業」に昨年度の参加生徒は1名であったが、今年度は6名であった。</p>	<p>③ 年次団と保健室や特支人権課や支援員と情報交換し生徒の指導を多角的に行った。全職員で協力して教育相談も行い生徒個々に応じた支援を行い、HR担任が代表して家庭への連絡を密にした。</p> <p>PTA会長を中心に、研修会は和気あいあいと活発な活動が実施できた。3課程の連携も図れていた。</p> <p>④ 巡視、あいさつ運動ともに計画的に実施することができたが、生徒の活動については、効果をどのように図るのが非常に難しく、評価し難い。</p> <p>教職員、生徒、加茂自主防災連合会、徳島西消防署、地域住民及び地域防災関係者、校内の他課程とも協力して実施した。</p>	<p>③-1 教職員間の連携が十分に図られていることや、保護者や地域との連携に取り組まれていることは高く評価できる。</p> <p>③-2 PTA関連行事への保護者の参加率が向上していることは良いことだ。参加率が更に向上するよう呼びかけてほしい。</p> <p>④-1 地域との交流は大切。今後の活動については、見直していく時期にきているのではないかと考える。</p> <p>④-2 防災士の資格を取得した生徒がいることや、地域と連携した活動に参加する生徒が増えたことは、防災意識が高まっているということだ。</p>	<p>○ 共感や寄り添いを重視し、生徒の自己肯定感を高めたり、信頼を得ている。欠席の多い生徒等にもどのように対応するか話し合い方針を決めていく必要がある。</p> <p>○ 入学式の際にPTA活動への積極的な呼びかけを行う。今の時代や保護者のニーズに合ったPTA関連行事の開催方法や内容を工夫し精選しながら実施できるようにする。</p> <p>○ 当たり前に行うべき生活習慣を、月1回の取り組みで励行し、何を期待して活動するのかを整理する必要があると考える。</p> <p>○ この行事の主担当課程が年度交代することがあったり、防災イベントの開催が夕方の時間帯であるため、調整の難しさがあるが、生徒に貴重な体験ができる機会にしたい。</p>
----------------------------	---	---	---	---	--	--

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった